

# 未来を変える

## みんなの“一歩”

「ウィズコロナ、ポストコロナ時代を見据えて」



新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大を受け、滋賀県はウィズコロナ、ポストコロナ(コロナ後)の時代を見据えて、すべての人の“いのち”が等しく守られる、本当の意味での「健康しが」を目指します。

今年度は、感染症対策に万全を期しつつ、「ひと」「社会・経済」「自然」の未来につながる一歩を踏み出すための予算を編成しました。併せて、行政のデジタル化による、暮らしをより豊かにするイノベーションの実現を目指します。

### 令和3年度のポイント

#### 「いのち」と「くらし」人権の保障

生涯を通じた「からだ」と「こころ」の健康のため、感染症対策や自殺予防対策の強化などとともに、心を豊かにする文化・スポーツを通じた元気な地域づくり、「失業なき労働移動」の実現、災害に備えたまちづくりを進めます。

- 医療提供体制の充実・確保(23,981百万円)、衛生科学センターの機能強化に向けた検討(3.7百万円) など
- みんなでつくる「健康しが」事業(111.9百万円)
- ここに寄り添う滋賀(111.5百万円)
- 滋賀の美の魅力発信(358.2百万円)
- 女性の就労をサポートする取り組み(75.1百万円)
- 出向・副業・移籍を支援する雇用シェアサポート事業(33.9百万円)
- 強靱な社会インフラの整備、維持管理(96,894.6百万円) など

#### ひとの未来への一歩



組織改編

- 新型コロナウイルス感染症対策などに、より迅速かつ確に対応するため、専任職員を増員し、医療政策課感染症対策室を課に格上げして「感染症対策課」を設置(健康医療福祉部)
- 自然災害や新型コロナウイルス感染症対策・高病原性鳥インフルエンザなど、頻発する危機に対して全庁一体となって対応するため、防災危機管理局に「危機管理室」を設置して3室体制に再編(知事公室)
- 滋賀の多様な美の魅力を広く発信するため、「文化芸術振興課美の魅力発信推進室」を設置(文化スポーツ部)
- 本年6月の再開館にあたり、多様性をより深く感じられる場となる美術館を目指して、特定の時代や傾向を想起させる「近代」をはずし、「美術館」に改称。併せて、美術を通じた人々の学びや次世代の育成・交流などのため、同館内に「教育・コミュニケーション室」を設置(文化スポーツ部)
- (仮称)新・琵琶湖文化館の開設に向けた準備のため、文化財保護課文化財活用推進室の名称を「文化財活用推進・新文化館開設準備室」に改称(文化スポーツ部)

#### 社会・経済の未来への一歩



#### 次世代のための施策(未来への投資)

妊娠・出産・保育に関わる助成や支援、教育や図書館の取り組みの拡充などにより、滋賀で子どもが幸せに育つための環境づくりに取り組みます。また、未来に向けて新たな価値を生み出す産業の創出・確立を支援していきます。

- 安心して不妊・不育治療を受けられる環境づくり(768.7百万円)
- 滋賀で誕生ありがとう事業(11.3百万円)
- 滋賀県初の高等専門学校設置の検討(46.7百万円)
- 近未来技術等の社会実装に向けた取り組みへの支援(25.2百万円)
- “儲かる水産業”の構築(31.3百万円) など

#### 自然の未来への一歩



#### びわ湖発の「グリーン・リカバリー」

2050年までにCO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロにする「CO<sub>2</sub>ネットゼロ」に挑戦し、持続可能で活力あふれる循環共生社会を目指します。そのために、脱炭素社会への取り組みや新しいエネルギー社会づくりを加速化するとともに、ワーケーションなどによる観光振興、農山村の活性化につながる「やまの健康」などに取り組みます。

- 「CO<sub>2</sub>ネットゼロへの挑戦」(5,562百万円)
- 新しい時代における観光振興と観光需要の回復(1,489百万円)
- 「びわ湖の日」40周年記念事業(13.9百万円)
- 「やまの健康」の推進(3,648百万円) など

組織改編

- エネルギー政策と温暖化対策に一体的に取り組むため、総合企画部エネルギー政策課と琵琶湖環境部温暖化対策課を統合し、総合企画部に「CO<sub>2</sub>ネットゼロ推進課」を設置(総合企画部)

#### 県民とともにつくりあげる未来への土壌

行政手続きや行政の情報提供・相談業務など、行政サービスのデジタル化を進めます。

- 新たな価値を創造するDXの推進(526.2百万円)
- 県民との対話と可視化による県政の実現(14.2百万円) など

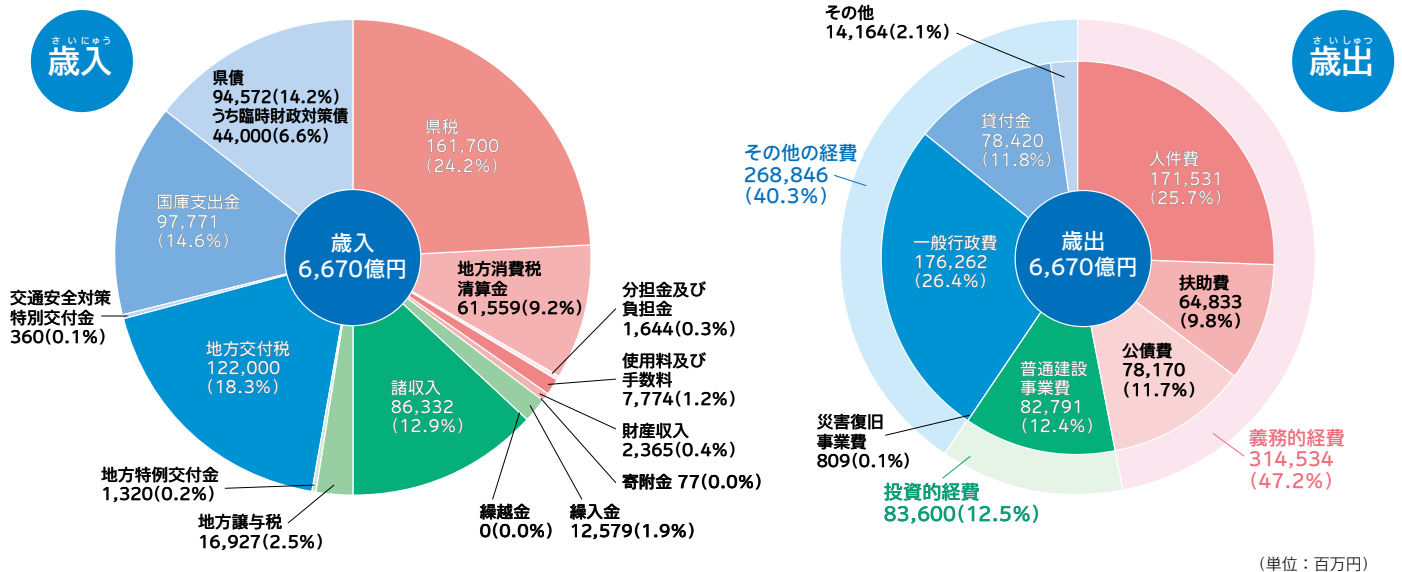
組織改編

- 令和3年中に国の「デジタル庁」創設が計画される中、地域のデジタル化を推進するため、情報政策課に「地域デジタル化連携推進室」を設置して情報政策部門を強化(総合企画部)

※令和2年度補正予算(2月補正)の一部を含みます。

## 令和3年度当初予算額

一般会計 **6,670億円** 対前年度当初予算比 **965億円増** **▲16.9%**



(単位：百万円)

- 県税** ▼ **108億円**  
新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、多くの企業の業績悪化が見込まれることや、給与所得の減少等により、大幅な減収が見込まれます。
- 地方交付税** ▲ **50億円**  
国の計画を踏まえると、地方税が大幅な減収となる中で、地方交付税総額が増額され、前年度から増加する見込みです。
- 県債** ▲ **155億円**  
国の防災・減災、国土強靱化対策に基づく事業が令和2年度補正予算での対応となったことにより減少しますが、臨時財政対策債の増加により、前年度から増加します。

- 義務的経費** ▲ **75億円**  
退職者数の増加に伴う退職手当の増、新型コロナウイルス感染症対策経費や社会保障関係費の増、元金償還金の増等で増加します。
- 投資的経費** ▼ **120億円**  
(仮称)彦根総合運動公園の整備経費等は増加しますが、国の防災・減災、国土強靱化対策に基づく事業が令和2年度補正予算での対応となったことなどにより減少します。
- その他の経費** ▲ **1,009億円**  
中小企業振興資金貸付金や、感染症予防対策事業費の増加などにより、総額で増加しています。

※一般会計とは別に、特定の事業や貸付金などを管理する10の「特別会計」と民間企業と似た会計を行う5つの「企業会計」があります。

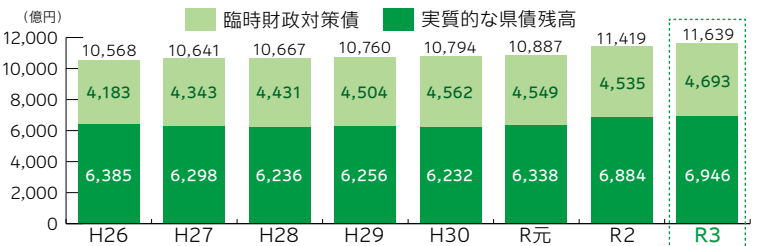
## 県の「予算」を家計簿に例えると

収入		支出	
令和3年度当初予算を10万分の1に圧縮して、年間収入667万円の家庭に例えています。			
給料	353万円	生活費(人件費・物件費など)	203万円
うち基本給(県税)	162万円	医療・介護費(扶助費)	65万円
うち諸手当(地方交付税など)	191万円	家族への仕送り(補助金・繰出金など)	156万円
公的助成(国庫支出金など)	116万円	家の修繕・増改築(投資的経費)	84万円
預金の取崩し(繰入金)	13万円	親戚の事業への貸付(貸付金)	78万円
銀行からの借入(県債)	95万円	ローンの返済(公債費)	78万円
親戚への貸付金の返済など(諸収入)	86万円	預金(積立金)	3万円
土地の売却収入など(財産収入)	2万円	<b>合計</b>	<b>667万円</b>
その他の収入	2万円	預金残高(R3年度末基金残高見込)	51万円
<b>合計</b>	<b>667万円</b>	ローン残高(R3年度末県債残高見込)	1,164万円

### 県債(県の借金)について

抑制に努めるものの残高が増加

新型コロナウイルス感染症の影響による臨時財政対策債(地方交付税から振り替えられた地方債)の増加に加え、県民の皆さんの安全・安心を守るための防災・減災、国土強靱化対策などにより、県債残高は増加する見込みです。



(注)令和元年度までは各年度末残高であり、令和2年度は最終予算額、令和3年度は当初予算額に基づく各年度末現在の見込額です。

お問合せ 県庁財政課 TEL 077-528-3187 FAX 077-528-4817 e be00@pref.shiga.lg.jp  
お問合せ 県庁人事課 TEL 077-528-3154 FAX 077-528-4815 HP https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/jinji/